



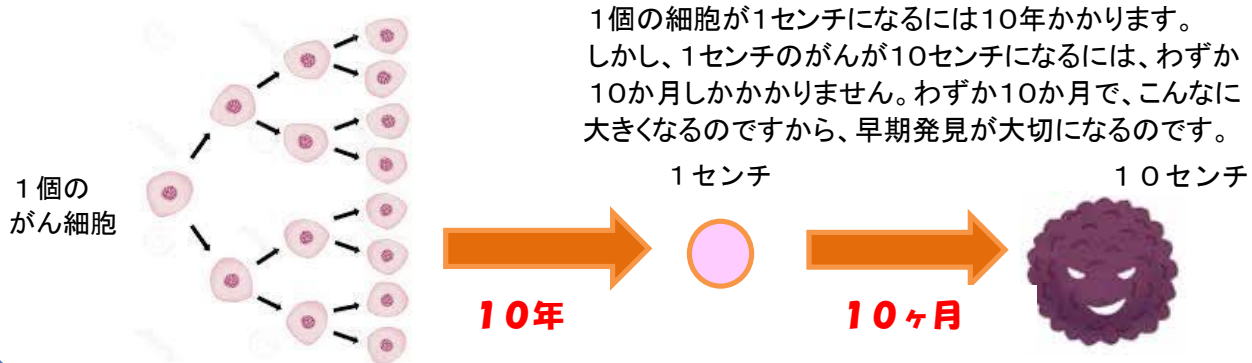
健康だより

NO. 43

どうしてがんになるの？

私たちの体は60兆個の細胞でできています。健康な細胞は古くなると新しい細胞と生まれ変わります。しかし、なんらかの遺伝子に傷がつき、細胞分裂を繰り返しながら際限なく大きくなっていく細胞が『がん』です。
やがて、がんは正常な組織を破壊してしまうのです。

なぜがんは大きくなるの？



早期がん、進行がんは何が違うの？

がんは大きくなればなるほど、より急激に増殖していきます。小さいがんであれば手術で取り除くことで完治が期待できます。しかし、がんが大きくなると、周囲の正常な組織を侵して血液・リンパ液に入り込み、目に見えない小さながん細胞が新たな腫瘍をつくります。そのため、がんが大きくなるほど転移が起きている可能性が高くなります。

リンパ液・血液があつまる場所は転移が起きやすい？

がんは全身どこでも転移する可能性があります。なかでも、がん細胞がリンパ液に入り込むと、リンパ液が集まるリンパ節に転移がみられます。(リンパ行性転移) また、がん細胞が血液に入り込むと、血液と共に運ばれて、肺や肝臓など他の臓器に転移がみられます。(血行性転移) そのため、リンパ節や他の臓器にがんがあるということは、がんが進行している可能性が高いということです。

免疫力の低下ががんの原因なの？

免疫力の低下だけががん発症の原因ではありません。ただし、免疫力の低下を招くような生活習慣は、発がんのリスクを高めることにつながります。ストレス・喫煙・栄養の偏りなど、好ましくない生活習慣の見直しが必要です。



がんになる前に、食べ物の嗜好が変わることがある？

がんが大きくなってきて突然大きく繁殖しだすとき、嗜好が変わることがあります。アイスクリーム・糖分の多いジュース・お菓子など、急に嗜好が変わって食べたくなるのががんがあなたに食べさせているのかも・・・。



保健福祉課
健康推進係

